第５章　まとめ

高次脳機能障害者における感情コントロールの課題は、「脳損傷そのもの」と、「脳損傷によって生じた変化」に起因し、多くの高次脳機能障害者に生じるもので、こうした状況が長く続くと、気分障害等の二次的な精神障害に発展するリスクが懸念されます。ある調査では、受障後６か月から１年の時期に二次的な精神障害を伴う者が増加するとされ、この時期は、医療機関でのリハビリテーションから職リハに移行する時期と重なることから、感情コントロールの課題は、高次脳機能障害者の職リハを実施するうえで看過できない課題となっています。

本報告書では、職業センターにおいて開発した「感情コントロールに課題を抱える高次脳機能障害者への支援技法」について、開発の方法や試行の概要、留意事項等について述べました。

開発にあたり、文献調査のほか、先駆的な国内外の取組に関する情報収集を行った結果、職リハ機関で取り組める内容として、「感情のバランスを保ち、安定して働くための知識付与や障害への自己認識を深め、対処手段の習得を図ること」を目的としたグループワークを開発し試行しました。

支援は、全６回のグループワークと個別フォロー（宿題や個別相談等）で構成しました。グループワークの内容は、行動面・認知面の２つのアプローチを紹介し、それぞれの受講者に合ったアプローチが選べるよう配慮しました。グループワークとグループワークの間は、宿題や個別相談といった個別フォローを行い、内容のおさらいや実践、次回の予習の機会としました。実施に際しては、記憶障害をはじめとした認知機能障害に対する配慮と、グループによるリスクを低減し、効果を引き出すような支援者の関わりが必要でした。

今回の試行は対象者が 10 名と少なく、更に支援実績の蓄積が必要ですが、受講者の反応は概ね良好で、各種質問紙の結果や受講者の感想、行動観察から、一定の変化が認められました。この変化を短期的なものに留めず、感情のバランスを整え、職業生活において感情コントロールの課題の影響を少なくするためには、グループワークで学んだことを実践し続けることが大切です。また、グループワークでの学びを家族や地域の支援機関等と共有し、引き継ぐ仕組み作りが必要です。

さらに、高次脳機能障害は、その人の人生における目標やキャリアに非常に大きな変化をもたらします。変化に直面したときには、心理的にも大きく動揺すると思われます。職場復帰支援に際しては、職務再設計が一つの大きなテーマとなり、このことについて昨年度の実践報告書にとりまとめたところですが、対象者の心理的なサポートも大きな支援課題であると考えられ、どのようにして支援を行っていくか、検討が必要です。

近年、様々な事情を抱えた労働者の職業との両立支援の重要性が説かれるようになり、平成 28 年２月には「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」が厚生労働省から発表されました。そのなかでは、脳卒中等の脳血管疾患に罹患した労働者に対する支援上の留意事項として、高次脳機能障害が後遺症として残る可能性があるとの言及があり、また、障害が残った場合には職リハサービスを利用することも可能であると

記載されています。こうした動きも背景となって、職リハサービスを利用する高次脳機能障害者は増加していくものと考えられます。

本報告書が、就職・復職を目指す高次脳機能障害者の感情コントロールに対する支援において、参考となれば幸いです。

【参考文献】

１）浅井孝一郎:「オーストラリアにおける感情コントロールに課題を抱える高次脳機能障害者への支援」、第 26 回職業リハビリテーション研究・実践発表会論文集、2018

２）事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン、平成 28 年２月、厚生労働省

３）豊田章宏：復職コーディネーターハンドブック　脳卒中リハビリテーション分野、独立行政法人労働者健康安全機構、2016